

平成 30 年度

環境活動レポート



対象期間：平成 30 年 7 月～令和元年 6 月
発行年月日：令和 2 年 3 月末日

株式会社藤孝産業



目 次

1.環境方針	1
2.事業概要及び認証登録範囲	2
3.実施体制	3
4.環境目標	4
5.環境活動計画	5
6.環境目標の実績	6
7.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	7
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	8
9.代表者による全体評価と見直し結果	8
10.情報公開事項	9

1 環境方針

《環境理念》

当社は、1979年1月に一般廃棄物収集運搬業を創業、2007年6月産業廃棄物収集運搬業の許可取得致しました。

お客様から排出される廃棄物も多様化しており、それに伴い、リユース、リデュース、リサイクル、地球環境の保全に力を入れ、適正に運搬し、お客様に満足・信頼して頂けるようお応えいたします。

この地域の美しい自然環境を将来世代に引き継いでいくために、廃棄物の適正処理が地域の環境保全に寄与すると認識しております。

このため、収集運搬に係る事業活動に際し、関連法規類の遵守、環境負荷の低減、及び環境保全活動に積極的に取り組んでいくことを誓約します。

《環境保全への行動指針》

1. 収集運搬に使用する車両・重機は排ガス・騒音等環境に配慮した収集運搬を実施します。
2. 廃棄物の適正分別を、お客様に提案し、お客様の廃棄物のリサイクル率向上をサポートします。

自社で運搬できない廃棄物は、適正運搬業者をお客様に紹介し、不法投棄や環境汚染の防止に努めます。

3. 社内における省エネ、廃棄物削減、節水及びグリーン調達に努めます。
4. お客様に役立つ情報を提供できるように、取組や教育を通し社員の資質を高めます。
5. 事業活動に関連する法規制は、確実に遵守することを誓約いたします。
6. 地域活動、環境保全活動への参加、環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。特に、災害対応に迅速に対応するため重機類の整備・管理を徹底します。

制定日：平成27年5月31日

株式会社 藤孝産業

代表取締役 **伊藤 美知子**

2 事業概要及び認証登録範囲

1. 名称及び代表者名

株式会社藤孝産業 代表取締役伊藤美知子

2. 所在地

・本社事務所：岩手県花巻市実相寺 237 番地 17 ・作業場：岩手県花巻市南城 20 番地

3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

・環境管理責任者：部長 小原洋次 ・担当者：菊池陽子
連絡先：岩手県花巻市実相寺 237 番地 17 TEL:0198-24-8033

4. 事業活動の内容

・一般廃棄物収集運搬業 ・産業廃棄物収集運搬業

5. 事業規模 ※平成 30 年度実績(H30 年 7 月～R1 年 6 月)

資本金	300 百万円		
廃棄物受託量(単位：t)	H28 年度	H29 年度	H30 年度
一般廃棄物収集運搬	2,290	2,212	1,904
産業廃棄物収集運搬	187	320	277

(一般・産業廃棄物については行政の届け出の関係にて 4 月から 3 月とする)

	本社事務所	事業所
従業員	3 名	7 名
敷地面積	321.72 m ²	1,047 m ²
延べ床面積	39.74 m ²	1,047 m ²

6. 認証登録範囲

全サイト・全組織・全活動が認証登録範囲

7. 営業範囲

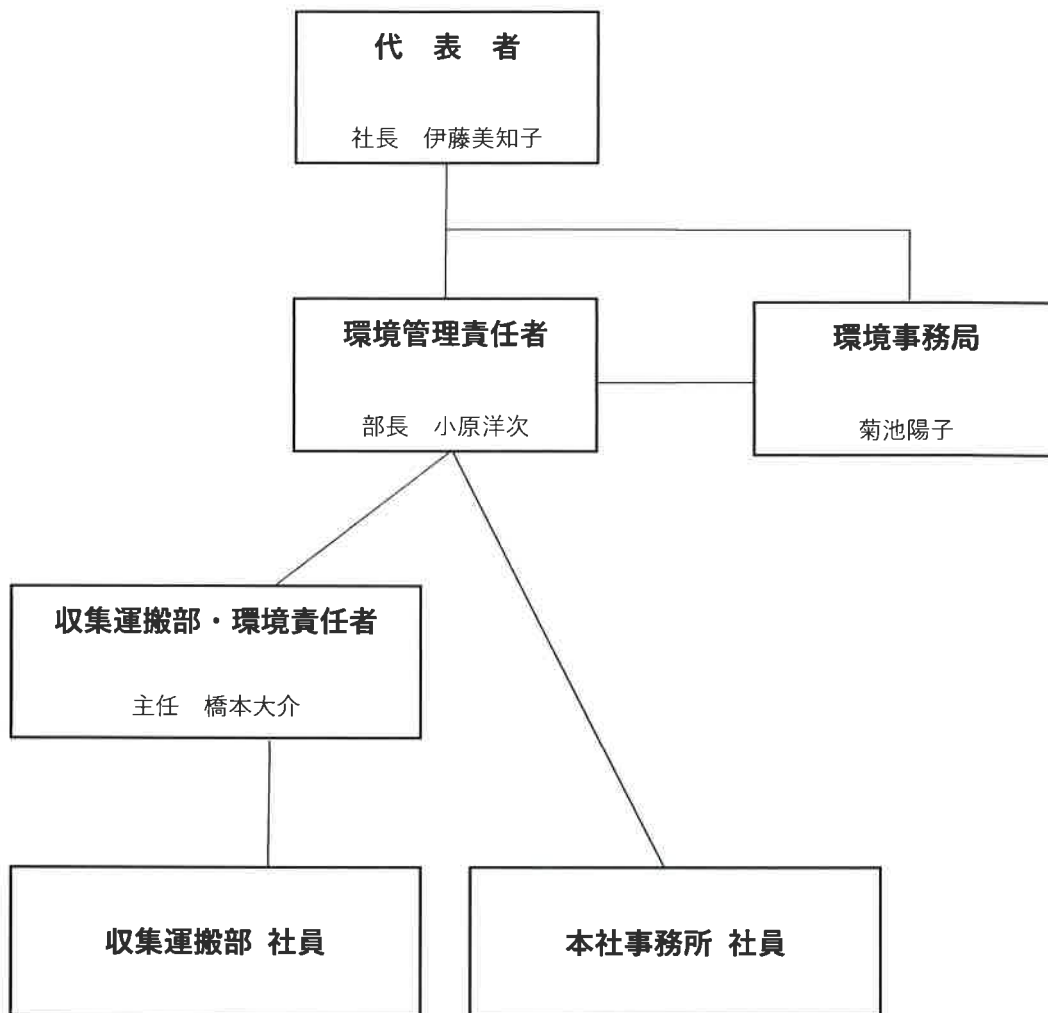
- ・一般廃棄物収集運搬
花巻市全域・奥州市全域
- ・産業廃棄物収集運搬
汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック・紙くず・木くず・繊維くず・
動植物性残さ・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・
がれき類

8. 社歴

- 1979 年 1 月 岩手県花巻市桜町で藤孝産業を設立
- 1979 年 4 月 花巻市一般廃棄物収集運搬の許可取得
- 2004 年 7 月 有限会社藤孝産業を設立
- 2007 年 6 月 産業廃棄物収集運搬の許可取得
- 2009 年 5 月 事業範囲変更(繊維くず・ゴムくず・がれき類・石綿含有産業廃棄物を追加)
- 2015 年 7 月 株式会社藤孝産業に商号変更
- 2016 年 6 月 事業範囲変更(汚泥・廃酸・廃アルカリを追加)

3 実施体制

1. 組織



2. 役割・責任・権限

役職	役割・責任・権限
代 表 者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境方針の策定並びに見直し全従業員への周知 ・環境管理責任者を任命。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境事務局へ報告。
環 境 事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)。 ・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
収 集 運 搬 部 環 境 責 任 者	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 ・従業員に対する教育訓練の実施。
全 社 員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境目標

1. 主な環境負荷の実績

表 1. 主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	115,663	116,357	105,570
購入電力使用量	kwh	4,529	4,893	4,973
軽油使用量	ℓ	43,643	43,680	37,859
総排水量*	m ³	41	41	38

*：排水量の測定はしていないので、水使用量から散水量を削減して求めた

2. 環境目標の設定

当社では、平成 26 年度を基準年度として中期及び単年度の環境目標を、それぞれ表 2 のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

表 2 環境目標

項目	基準年度実績値		中期目標(うち単年度目標)			
	H26 実績値	単位	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
二酸化炭素排出量	107,192	kg-CO ₂	104,487	103,420	102,354	101,275
顧客への提案・情報提供	—	件	—	—	1	1
一般廃棄物排出量	廃棄物が少なく、分別を徹底しデータ管理とする。					
総排水量	使用量が少なく、節水を呼びかけデータ管理とする。					
グリーン購入	6	件	7	8	9	10
地域貢献	2	件	2	2	2	2

注：購入電力の二酸化炭素排出係数は、H28 年度東北電力の調整後排出係数 0.496kg-CO₂/kwh

5 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでおります。

取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	取組内容	評価	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	使用していない場所の、照明消灯を確実に実行する。	○
		倉庫等、普段使用しない部屋は必要な時以外消灯を徹底する。	○
		照明器具については、定期的な清掃、交換を行う等、適性に管理する。	○
	冷暖房	冷暖房の温度を冷房 28°C・暖房 20°Cを順守する。	○
		エアコンのフィルターの清掃を定期的に行う。	○
		空調を必要な時間帯に限定して使用する。	○
		ドアの開け放しはしない。	○
	節電	昼休みの休憩時、必要のない所は消灯をする。	○
		残業の時は、必要な箇所のみ点灯し、業務に必要なない箇所は消灯する。	○
		外出時、退社時など OA 機器の待機電源は切る。	○
		パソコン等の OA 機器、照明器具など省エネルギー型に順次切り替える。	○
	車 輛 その他	車両のアイドリングストップを実践する。	○
		急発進、急加速はしない。	○
		空ぶかしはしない。	○
		冷暖房の控えめ使用	○
		タイヤの空気圧は定期的に点検し、適性値を保つよう整備する。	○
		毎日の車両点検を行い、排気ガス、騒音レベルを抑える。	○
最大積載量を超えない運搬を行う。		○	
ハイブリット車や低公害車への切り替えに取り組んでいる。	○		
顧客への 提案・情報提供 【新設】	蛍光灯・電池の廃棄に関する情報提供。(新設)	○	
	紙類の再資源化提案、情報提供。(新設)	△	
	廃棄物処理組合等からの変更等についての情報提供(新設)	○	
グリーン購入	事務用品等のエコマークの確認。	○	
	環境配慮製品の優先購入。	○	
地域貢献	ボランティア活動	○	
	地域貢献	○	

6 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、平成30年7月から令和元年6月までの実績についての評価結果を報告いたします。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	基準年度実績値		当該年度(H30年度)			達成状況
	単位	H26実績値	増加・削減率	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	107,192	4%減	102,354	105,570	未達成
顧客への提案情報提供	件	—	—	1	2	達成
グリーン購入	件	6	150%増	9	10	達成
地域貢献	件	2	±0	2	5	達成

環境活動の状況

・当該年度に新規に設定した「顧客への情報提供」について、お取引を頂いているお客様にも3R活動につながる内容を含め、情報提供を行った。

蛍光灯・電池の取り扱い及び処理方法について顧客へ文書配布や訪問による説明を行った。

また、廃棄物分別によりリサイクルできるものがあることを周知させるために、分別方法を記載した分別表を作成・配布した。

2件達成できたことは大きな成果であると思う。

・毎年9月10日地区の秋祭りで小学生が神輿を担いで商売繁盛、家内安全を祈願しながら町内を回ります。弊社では、事務所下の車庫を開放して飲み物、お菓子、トイレを提供。

お菓子、飲み物を提供した後のゴミは分別し、ビニール類、ペットボトルをリサイクル。

毎年3月に秋田の田沢湖スキー場で行われる「東北ジュニアカップ」、地元花巻市の宮沢賢治童話村にて開催させている「キャンプインフェス(INAKA FES)」、花巻市を代表する秋祭りの「花巻まつり」などにも協賛。弊社と同じ地区にある自治会の廃品回収にもトラック及び人員の協力。



7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1.取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	達成度	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	消灯等の取組、定着。 清掃時期の計画・管理が必要。	○	継続
	冷暖房	温度設定、清掃、電源オフ等、定着。	○	継続
	節電	休み時間の消灯・待機電源オフ、定着。	○	継続
	車両 その他	エコドライブの推進。 社用車のガソリン車からハイブリッド車への買替。	○	継続
顧客への 提案・情報提供		問い合わせの対応より提案、情報提供。 積極的に提案、提供できるよう取組む。	○	継続
グリーン購入		既存購入品はエコマーク等の確認。 新規購入品は環境配慮製品の優先購入を徹底。 通常購入品は固定品が多い為、今後の品目増加は極端でないと考える。よって、次年度よりデータ管理への移行が望ましい。	○	データ管理
地域貢献		例年より地域貢献の機会が増えた。会場となる場所の廃棄物収集運搬の依頼がある。 分別指導、3Rの推進に積極的に取り組む。	○	継続

○：評価できる、△：まずまず評価できる、×：評価できない

2.次年度以降の重点取組み

1. 二酸化炭素排出量の削減、節電、エコドライブの推進に努め二酸化炭素排出削減に取り組む。
2. 顧客への提案・情報提供を積極的に行い、3R 推進に取り組む。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける廃棄物処理法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等、住民からの苦情、訴訟等について、問題ありませんでした。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針	実行できてる。	継続する。
2 環境目標	ハード面については、車輛入替の結果、二酸化炭素排出量の削減が図られた。 売上高の上昇により、走行距離の増加、使用車両の増加が相まって来るので一概には言えない。 ただし、走行距離、給油量を日々記録させたことにより、従業員一人一人の意識改善が図られた。	各従業員のエコドライブ意識 コスト削減の意識づけを継続する。 「エコドライブ10か条」のような 掲示物による啓発をする。
3 環境活動計画及び 環境経営システム	新規登録時から進めてきたグリーン購入だが、品目が頭打ちとなったので、今後はデータ管理とする。 今回新設した「顧客への提案・情報提供」が上々の滑り出しをみせた。 花巻市では蛍光灯・電池等の取り扱いが変化したことにより顧客の混乱がみられたが、提案・情報提供により、顧客側は解決、弊社側は業務の受注に繋がるので積極的に取り組みたい。	引き続き二酸化炭素排出量の削減に取り組む。 環境活動、環境経営活動を更に積極的に取り組めるよう学習会等を開催したい。
4 その他 ()		
5 全体評価	組織の変更はなかったが、エコアクションの取組体制を再構築したことにより、各担当者 と従業員との意識の差が小さくなってきている。 個々の小さな行動の積み重ねにより、全体の結果として大きく出てくるので、今後より一層のエコ活動への取組をしたい。 会社全体のコストカット及び営業利益の向上に繋がることを意識して取組を継続させたいと思う。	

10 組織の概要(情報公開)

事業所名		株式会社 藤孝産業			
代表者名		代表取締役 伊藤 美知子			
所在地		岩手県花巻市実相寺237番地17			
環境管理責任者		部長 小原 洋次			
エコアクション21担当者		事務局 菊池 陽子			
連絡先		電話	0198-24-8033	FAX	0198-24-8035
		E-mail	fujiko_sangyo@iaa.itkeeper.ne.jp		
		URL	http://fujiko-sangyo.jp/		
事業活動の内容		一般廃棄物収集運搬業(積替え保管あり)：花巻市、奥州市、盛岡市、紫波地区 産業廃棄物収集運搬業(積替え保管なし)：岩手県			
事業計画の概要		一般・産業廃棄物収集運搬業を通じて資源循環型社会構築を目的とし、 低炭素社会構築に貢献する。			
事業の範囲		営業範囲：岩手県 花巻市 ・ 盛岡市 ・ 奥州市 紫波地区(特定家庭用機器再商品化対象物の荷下ろしに限る)			
事業規模	事業年度	単 位	H28年度 (H28.7~H29.6)	H29年度 (H29.7~H30.6)	H30年度 (H30.7~R1.6)
	売上高(千円)	千円	92,770	110,170	104,518
	収集運搬量産廃	t	187.30	319.53	276.50
	収集運搬量一般	t	2,290	2,212	2,325
	処分量	t			
	従業員(名)	人	10	9	9
法人設立年月日 平成16年7月1日			資本金 3 百万円		
許可の内容	許可名/許可番号	年 月 日		事業区分、廃棄物の種類	
	花巻市一般廃棄物 第244-5号	許可	令和2年4月1日		一般廃棄物の収集運搬業： 事業系・家庭系ごみ・特定家庭用機器再商品化対象物
		有効	令和4年3月31日		
	奥州市一般廃棄物 第807号	許可	令和2年4月1日		一般廃棄物の収集運搬業： 事業系・多量排出者ごみ・特定家庭用機器再商品化対象物
		有効	令和4年3月31日		
	盛岡・紫波地区 一般廃棄物処理業 許可証	許可	令和2年4月1日		一般廃棄物の収集運搬業： 特定家庭用機器再商品化対象物の荷おろしに限る
		有効	令和4年3月31日		
	産業廃棄物収集運搬 00302135760	許可	平成29年6月6日		産業廃棄物収集運搬業： 廃油・廃酸・廃アルカリ・汚泥・廃プラスチック・紙くず 木くず・繊維くず・動植物性残さ・ゴムくず・金属くず ガラス・コンクリート・陶磁器くず・がれき類 (特別産業廃棄物であるものを除く) 積替え保管なし
		有効	令和4年6月5日		
	基準適合産業廃棄物処理業者 岩手県産廃処理業者 育成センター 第2019-023号	許可	令和1年6月28日		
有効		令和3年6月27日			

設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	車 輛	設備名	能力・産廃の種類	台数
	一般廃棄物保管施設	102.3m ³			塵芥車	2,050 kg	3
	一般廃棄物保管場所	206.2m ³			塵芥車	2,600 kg	2
					塵芥車	2,100 kg	1
					コンテナ車	3,850 Kg	1
					4 t ダンプ	3,500 kg	1
					2 t 平ボデー	1,450 kg	1
					2 t 平ボデー	2,000 kg	1
					軽トラ平ボデー	350kg	1
					社用車		2

処理方法・処理工程

一般廃棄物収集運搬 業者に収集・回収 → 分別 → 保管 → リサイクル業者・処分場に運搬
産業廃棄物収集運搬 排出事業者に収集 → 中間・最終処分場に運搬

廃棄物 受入 基準	収集運搬物・処理物		受入基準	
	一般廃棄物収集運搬	可燃物	不燃物の混合がないこと。80×60×60センチ以内とすること。	
		不燃物	可燃物の混合がないこと。	
	産業廃棄物収集運搬	廃油	密閉容器に入れ、漏洩のないこと。	
		廃プラスチック	混合物、付着物のないこと。	
		紙くず	混合物、付着物のないこと。	
		木くず	混合物、付着物のないこと。	
		繊維くず	混合物、付着物のないこと。	
		動植物性残さ	混合物、付着物のないこと。	
		ゴムくず	混合物、付着物のないこと。	
		金属くず	混合物、付着物のないこと。	
		ガラス・コンクリート・陶磁器くず	混合物、付着物のないこと。	
		がれき類	混合物、付着物のないこと。	
		汚泥	密閉容器に入れ、漏洩のないこと。	
		廃酸	密閉容器に入れ、漏洩のないこと。	
		廃アルカリ	密閉容器に入れ、漏洩のないこと。	
廃棄物の処理料金については弊社電話0198-24-8033にお問い合わせ下さい。				

受託した産業廃棄物の処理量

平成30年度

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t
産業廃棄物	廃油		0.6
	廃プラスチック		120.8
	廃プラスチック/金属		0.1
	廃プラスチック/金属/ガラス・陶磁器屑		0.8
	木くず		36.9
	汚泥		13.9
	金属くず		59.5
	ガラスくず/コンクリートくず/陶磁器くず		24.5
	ガラス/陶磁器くず		1.4
	コンクリートがら		8.9
	がれき類		8.0
	廃石膏ボード		1.2
	水銀使用製品産業廃棄物		0.005
	収集運搬量合計		
一般廃棄物	可燃物		1,816.0
一般廃棄物 (資源化)	缶		33.6
	ビン		60.5
	ペットボトル		5.9
	ダンボール		390.7
	雑誌		14.3
	新聞		4.0
	収集運搬量合計		

		単位	H28年	H29年	H30年
① 総エネルギー投入量	購入電力	MJ	4,529	4,893	4,973
	化石燃料	MJ	43,643	43,680	40,179
	新エネルギー	MJ			
	その他	MJ			
② 総物質投入量	資源投入量	t			
	循環資源投入量	t			
③ 水資源投入量	上水	m ³	41	41	38
	工業用水	m ³			
	地下水	m ³			
④ 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	115,663	116,357	105,570